

今週の為替相場見通し(2018年11月12日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		112.94 ~ 114.09	113.82	112.00 ~ 114.80
ユーロ	(ドル)		1.1317 ~ 1.1500	1.1336	1.1100 ~ 1.1400
(1ユーロ=)	(円)		128.61 ~ 130.15	129.02	127.00 ~ 130.00
英ポンド	(ドル)		1.2959 ~ 1.3176	1.2979	1.2800 ~ 1.3050
(1英ポンド=)	(円)	*	146.86 ~ 149.49	147.65	145.50 ~ 148.50
豪ドル	(ドル)		0.7183 ~ 0.7303	0.7227	0.7100 ~ 0.7300
(1豪ドル=)	(円)	*	81.25 ~ 83.05	82.24	81.00 ~ 83.50

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替市場第一チーム 森田 大貴

(1)今週の予想レンジ: 112.00 ~ 114.80 円

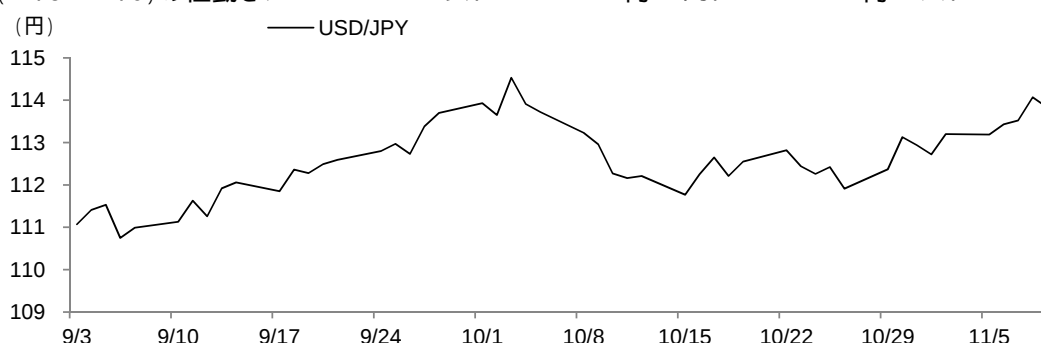
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は、米中間選挙開票の報に荒い値動きとなったが、後半は堅調に推移。週初5日に113円台前半でオープンしたドル/円は、米10月ISM非製造業指数が予想を上回ったことがドルの支援材料となりレンジ内で底堅く推移。6日は米中間選挙を控える中、113円台前半まで下落する局面があったものの、米株式市場が堅調となる中で113円台半ばまで上昇した。7日は米中間選挙の開票が進む中、米長期金利の上下動に連動する地合い。バージニア州下院選にて民主党候補が共和党現職を破って勝利と伝わり米長期金利が低下するとドル/円は112円台後半まで急落したが、その後は下院選で共和党が追い上げているとの報を受け113円台後半まで急反発。選挙の結果、上下院が「ねじれ」となったことを受け、事前予想通りだったもののドル売り優勢地合いとなり、週安値となる112.94円をつけたが、程なく113円台を回復。8日は米金利が下げ渋る展開に113円台後半まで上昇。FOMC結果は予想通り金融政策は据え置き、声明文では雇用と個人消費の判断が引き上げられたことを手がかりに過高値となる114.09円を示現。翌9日は、翌週月曜の米休場を控え、グローバルに株価が軟調に推移するなかポジション調整の動きに一時113.64円まで下落し、113.82円で越週した。

今週のドル/円相場は上値の重い展開を予想。先週は、米中間選挙を終えリスクセンチメントが改善、FOMCを経てドル全面高の展開となったことも相まって、ドル/円も一時114円台まで上昇する展開となった。注目された米中間選挙をほぼ波乱なく通過し、10月に大きく上昇したVIXも落ち着きを見せる中、株式市場が堅調に推移していることはドル/円の一定のサポート材料。しかしながら、米金利については既に10月に示現した年初来の高水準まで上昇しており、イベントを通過し米株、米金利ともに目先一段の上昇を試すには材料不足であろう。需給環境に鑑みても、114円を超える水準では本邦輸出企業、機関投資家ともに旺盛なヘッジニーズが確認されており、また短期のポジションについても、ドル/円、クロス円は既に相応にロングとなっていることから、現状レベルからはドル/円の上値は徐々に抑えられよう。来週は、13日(火)に2019年予算案の再提出期限を迎えるイタリア情勢が注目され、センチメントが悪化しユーロ円主導でクロス円が下落する展開には注意が必要。また、14日(水)米10月消費者物価指数、15日(木)10月小売売上高、パウエルFRB議長の講演が予定されており、米金利の動向を睨んだ米株の動向は引き続き注視したい。

(3)先週までの相場の推移

先週(11/5 ~ 11/9)の値動き: 安値 112.94 円 高値 114.09 円 終値 113.82 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

為替営業第二チーム 坂本 真史

(1) 今週の予想レンジ: 1.1100 ~ 1.1400 127.00 ~ 130.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ相場は上に往って来いの展開となった。まず対ドルでは、週初5日に1.13台後半でオープン。欧州委員会がイタリア予算をめぐる11月21日に制裁措置を発表するとの観測から1.13台半ばまで下落。但し、ラップ英EU離脱担当相が辞任しないと報じられると、ボンドが買い戻される動きにユーロも連れ、1.14台前半まで上昇。翌6日、米中間選挙を控える中、1.14ちょうどを挟んでレンジ推移。週央7日、米中間選挙開票速報で接戦州での民主党勝利が伝わり米金利が低下すると、ユーロは1.14台半ばまで上昇。その後、一部で共和党の善戦が伝わると1.14ちょうど近辺までドル買いが進む局面があったものの、上院は共和党、下院は民主党が制する見通しが強まるとドル売り優勢の展開となり、週高値1.1500をつけた。翌8日、前日に大きく上昇した分を取り戻す動きとなり、1.13台後半まで下落。発表されたFOMC声明文がタカ派的と捉えられドル買いが優勢となると1.13台半ばまで下落。週末9日、メイ政権に閣外協力する英国のDUPがメイ首相の提案に賛同できないと表明したことでボンドが下落するとユーロも連れ安となり、週安値1.1317をつける。その後、結局1.13台半ばで越週した。対円では、週初5日に129円ちょうど近辺でオープンし、週安値128.61円をつけた。その後、対ドルの上昇に連れて堅調推移し、週央7日には週高値130.15円をつけた。週末にかけては対ドルで下落したことで128円台後半まで下げ、129円ちょうど近辺で越週した。

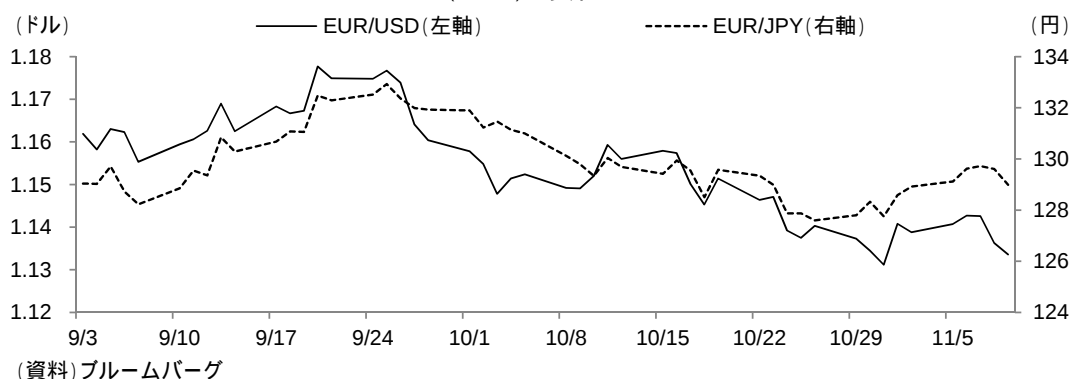
今週のユーロ相場は軟調に推移すると予想する。先週の米中間選挙の結果は事前予想通りで、今後の米政治の注目点は米議会が予算審議で可決できるかという来月以降のポイントにシフトした印象だ。他方で、先週発表されたFOMC声明文で雇用と個人消費の判断が引き上げられている状況でもあり、今週の米国は発表される経済指標に注目が集まる。今週は14日(水)に米10月CPI、15日(木)に米10月小売売上高が発表されるが、良好な結果となれば市場で米国の追加利上げを織込む確度が高まり、ドル買いが進みそうだ。ところで、欧州に目を転じれば政治的な混乱が収束しそうにない。イタリアを巡っては、13日(火)までに欧州委員会から予算案の修正を求められているイタリアのトリア財務相は、予算案の柱は変更しないと発言。制裁観測も浮上している欧州委員会と予算で妥結できない可能性が高まっている。イギリスを巡っては、メイ英首相のEU離脱を巡る提案に反対する閣僚の辞任や政党の動きが目立ってきている。今月中にもEUと英国が合意に達するとの楽観論もあるが、こちらも先行きが不透明になってきている印象だ。欧州関連の経済指標では、14日(水)にユーロ圏第3四半期GDP、独第3四半期GDPの発表が予定されている。これらがよほど良好な結果でない限り、欧州政治に不透明感が漂う中で、ユーロを買う動きは限定的になると考える。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/5 ~ 11/9)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1317 高値 1.1500 終値 1.1336

(対円) 安値 128.61 高値 130.15 終値 129.02



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.2800 ~ 1.3050 145.50 ~ 148.50 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、上昇先行後、週後半にかけて反落、ただし、対ユーロでは週引け直前まで堅調を維持した。ポンド堅調の背景ははっきりとはしなかったものの、英のEU離脱交渉に対する楽観の高まりが堅調を助けたとの解釈が広くされた。確かに、週末に一部英紙が「離脱交渉で内密の合意成立」を報じたりもしたが、同報は週明け直後には否定されていた。他にも、ラーフ離脱担当相の辞任が観測されたり、それが否定されたり、前後して開かれた英閣議で、英主要閣僚が、「ほぼ完成した」離脱提案を共有したと報じられたかと思えば、その提案にはアイルランド・北アイルランド国境問題に関する提案は含まれないと伝えられたり、情報は激しく交錯した。何が真実で、何が観測なのか判断としないまま、市場が「好感した」と考えられたのは、ポンド堅調から「逆算」しての後講釈だったのではない。前後して、市場の関心は6日投開票の米中間選挙に集まっていたが、結果は下院の過半数を民主党が奪還、上院は共和党が過半数維持と下馬評通りの内容。不透明感払拭から、米株が大きく水準を切り上げると、ドルも上げ足を強めた。また、8日に結果が発表された米連銀公開市場委員会も、利上げを粛々と継続する姿勢を再確認し、12月の利上げ実施がほぼ完全に織り込まれたことで、ドルの上伸を助けたものと考えられた。週後半のポンド安は、対ユーロでの高止まりから判断するに、ユーロ下落に連れた可能性が高いものと考えられた。ユーロ安の要因は、伊政府とEU（欧州委員会）の対立がより先鋭化したことが嫌気されたものと受け止められた。欧州委員会は、8日、伊成長予想を引き下げ、高めの成長見通しに基づく同国予算案を「現実的でない」と批判した。これに対し、伊政府側は、同成長予想のことを「表面的で部分的な分析」と応酬し、対決姿勢を鮮明にした。週引け直前には、ジョンソン交通相（ジョンソン前外相の弟）辞任の報が伝わり、ポンドは一段と水準を切り下げた。

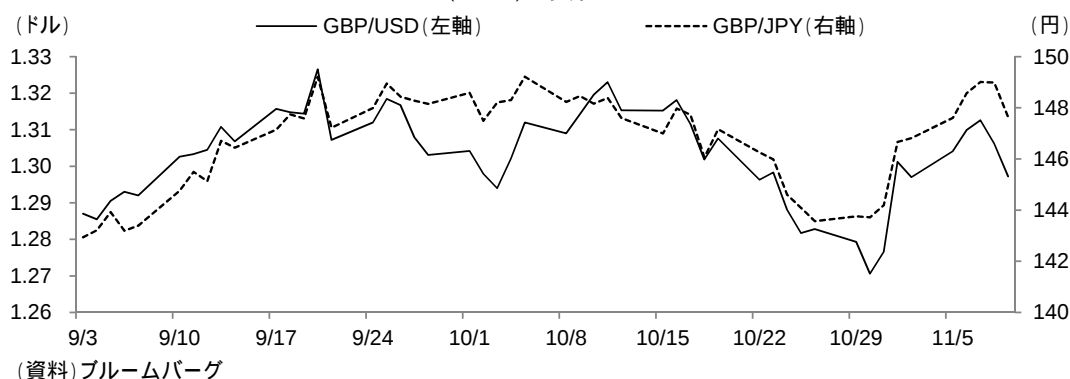
今週の英ポンド相場は、続落を予想。英のEU離脱を巡る英側の報道（英語の報道）は、英政府側の意図的な「漏えい」と思われる観測記事が頻繁に流されるようになり、交渉の実態が著しく見え難くなっている。とりわけ、「高級紙」に分類される一部英紙の観測報道（1日には「金融サービス分野での暫定合意成立」、4日には、上述、「内密の合意成立」を報じた）がひどい。この間も、一旦消えたはずの「11月の臨時サミット」開催の可能性がどこからともなくしばしば再浮上し、離脱交渉の進展に関する楽観を広げたが、現在に至るまで、EU側からは、臨時サミット開催の可能性はおろか、その観測すらも聞こえてきていない。前週引け直前には、上述ジョンソン交通相辞任の報の他、北アイルランドの民主統一党（DUP）から「（メイ首相が最終的な離脱提案に含んだと伝えられた）北アイルランドだけを関税同盟に残す提案は支持できない」との発言が伝えられ、英側の混乱ぶりはここにきて一層の拍車が掛かっている。11月臨時サミット開催、その場で離脱条件に合意、12月サミットで承認と言う道筋が、完全に潰えたとは現時点で言い切れないものの、楽観を全く許さない状況にあると言える。英からは、今週、13日（火）に英7～9月失業率（ILO基準）、平均賃金、14日（水）に英10月CPI、15日（木）に英10月小売売上高などの主要マクロ経済指標の発表が予定されるが、余程予想から乖離した数字でも出ない限りポンドが材料視する可能性は低い。

(3) 先週までの相場の推移

先週（11/5～11/9）の値動き:

(対ドル) 安値 1.2959 高値 1.3176 終値 1.2979

(対円) 安値 146.86 高値 149.49 終値 147.65



4. 豪ドル

為替営業第二チーム 森谷 友一

(1) 今週の予想レンジ: 0.7100 ~ 0.7300 81.00 ~ 83.50 円

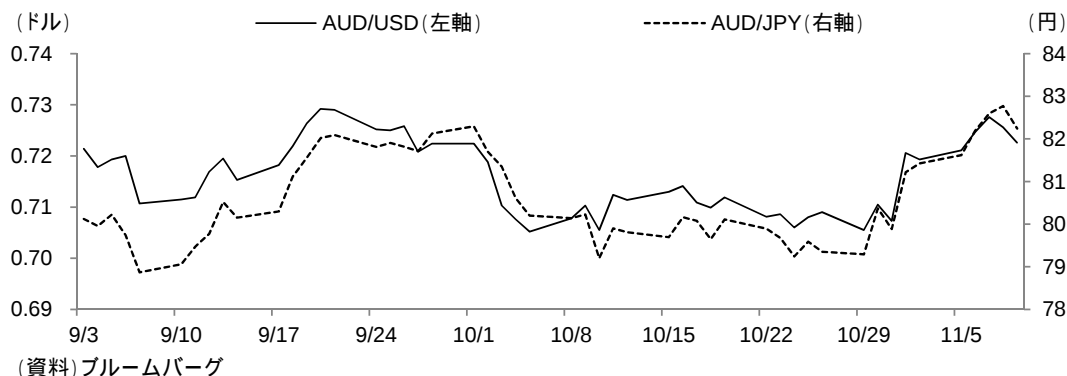
(2) ポイント[先週の回顧と今週の見通し]

先週の豪ドル相場は底堅い推移となった。週初5日に対ドルで0.71台後半、対円では81円台前半でオープン。対ドル・対円でそれぞれ週安値となる0.7183・81.25円をつける局面もあったが、翌日に豪準備銀行(RBA)理事会を控えて様子見ムードが漂う中、方向感に乏しい推移に。対ドルで0.7200を挟んでもみ合い推移となった。6日はRBA理事会において市場予想通り金融政策の据え置きが発表されたが、声明文において今後の経済見通しが上方修正されたこと等を背景に豪ドルはじり高推移となり対ドルで0.72台半ば、対円では81円台後半まで上昇する展開となった。7日は米中間選挙関連のニュースヘッドラインに反応して0.72台でのやや荒い値動きが続いたが、ねじれ議会となる事前予想通りの結果となるとリスクオンの展開となり豪ドル買いが進行し対ドルで0.7300、対円では82円台後半まで上昇する展開となった。8日も前日の流れを引き継ぐ格好で豪ドル高が進行し、対ドル・対円でそれぞれ週高値となる0.7303・83.05円まで上昇。しかし、FOMCにおいて利上げスタンス継続が示されドル買いの流れとなると、豪ドルは反落し対ドルで0.72台半ばまで下落する展開となった。9日も全般的なドル買い地合いが続く中、米株が大幅安となりリスク回避の動きが強まり、豪ドル売りが進行。対ドルで0.72台前半、対円では82円台前半で越過した。

今週の豪ドル相場は上値の重い推移を予想する。先週のRBA理事会では市場予想通り政策金利は据え置きとなったものの、声明文において経済見通しが上方修正されたことがサプライズとして受け止められ、豪ドルが買われる局面が見られた。今週は豪州で14日(水)の豪7-9月期賃金指数、15日(木)の豪10月雇用統計等の注目指標の発表が相次ぐ予定となっており、経済見通しの強気な見通しを裏付ける良好な結果となれば一旦は豪ドル買いで反応することとなりそう。しかしながら、RBAが9日に発表した四半期金融政策報告では「目先に金利を変更する強い根拠はない」とされており、早期利上げに対しては慎重な姿勢を崩していないことを勘案すると、今週発表の経済指標が良好なものとなっても、豪ドル買いは一時的なものにとどまると考えている。ドル相場に目を向けると、中間選挙やFOMCを波乱なく通過したことで、ドル買いの流れが先週半ば以降見られている。次回FOMCにおける追加利上げが確実視されている中、引き続きドルは買われやすい地合いが続く、豪ドル相場の重石となるだろう。また、荒い値動きが見られやすくなっている株価の動向にも注意が必要。引き続き金利上昇や中国経済への警戒感から株価が下落する局面では、リスクセンチメントに左右されやすい豪ドルも売られる展開となりそう。

(3) 先週までの相場の推移

先週(11/5 ~ 11/9)の値動き: (対ドル) 安値 0.7183 高値 0.7303 終値 0.7227
(対円) 安値 81.25 高値 83.05 終値 82.24



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。